

第28回日空衛全国会議

一般社団法人 東北空調衛生工事業協会
事務局長 鍵 茂



令和5年10月26日（木）秋田県秋田市「秋田キャッスルホテル」で、全国から約340名の会員が参加し、基本テーマを「産学官の連携」とし、第26回全国会議が開催されました。式次第は次の通りです。

式 次 第

1. 会長挨拶 (一社) 日本空調衛生工事業協会 会 長 藤澤 一郎
2. 来賓挨拶 東 北 地 方 整 備 局 副 局 長 上 森 康 幹 様
3. 基調講演
演題 「カーボンニュートラルを見据えた空調衛生工事業の明るい未来～行き場のない太陽発電を活用した蓄熱・貯湯と農業分野の再エネ熱利用など」
講師 東北文化学園大学 建築環境学科
客員教授 赤井 仁志 様
4. 講演一1
演題 「建設業の持続的な発展を目指して～建設産業活性化センターの取り組み」
講師 秋田県建設部 建設産業振興統括官 小野 潔 様
秋田県建設部 建設政策課 企画・建設産業振興チーム
建設人材確保推進員 森山 千恵子 様
5. 講演一2
演題 「大仙市花火産業構想に関する取り組みについて」
講師 大曲商工会議所副会頭 小松 忠信 様



開会にあたり藤澤会長は「時間外労働の上限規制が来年4月から始まるが、昨年度の段階で上限を超えている会員企業が相当数ある」と述べ、現場では我々と同じ後工程となる日本電設協と共に、諸官庁及び民間発注元に対し共同要請を行い、適正工期確保、4週8閉所の拡大に取り組む決意を述べられた。

担い手確保については「新たな業界ビジョンづくりに取り掛かっており、来年の全国会議には提示できる様、議論を深める」とし、地球温暖化対策については「温暖化効果ガスの排出削減を進める必要がある」と指摘された。



来賓の上森副局長は、近年の気候変動による秋田県、福島県の大雨災害に触れ、「防災・減災・国土強靱化の為の5か年加速化対策」を紹介された。我々建設業界を取り巻く環境については「時間外労働上限規制や担い手確保など喫緊の課題があり、国土交通省では働き方改革や処遇改善、適正な工期や予定価格の設定に努めている。カーボンニュートラルの取り組みに対し、空調衛生工事業は先導的な役割を担っており、今後も国の取り組みに理解と協力をお願いしたい」と述べられました。



その後、基調講演として東北文化学園大学客員教授の赤井仁志様による「カーボンニュートラルを見据えた空調衛生工事業の明るい将来～行き場の無い太陽光発電を活用した蓄熱・貯湯と農業分野の再エネ熱利用など」をテーマにした講演でした。その内容は

- ① カーボンニュートラルの実現を目指して再エネを考える
 - ② 太陽光・風力発電普及の次に来るもの
 - ③ 行き場の無い再エネ電力をヒートポンプ給湯・貯湯で利用する
 - ④ 再エネ熱（地中熱・未利用熱）の概要とメリット
 - ⑤ カーボンニュートラル時代の再エネ熱利用の融雪
 - ⑥ カーボンニュートラル時代の地中熱利用の施設園芸
- 大きく6つに分類されました。

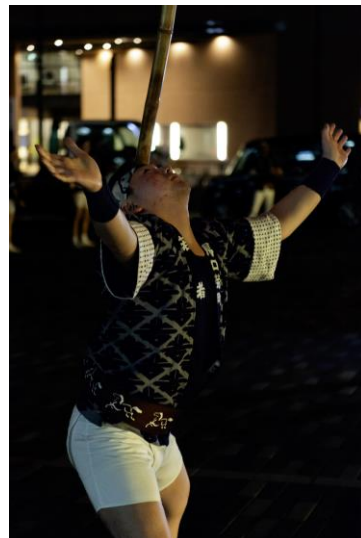
加温・冷却は世界エネルギー消費量のほぼ半分を占める。そのほとんどが化石燃料に依存していて、温室効果ガス排出と大気汚染を引き起こしている。そこで再エネ電力を利用して、加温・冷却を電化し、尚且つヒートポンプを活用して、柔軟に対応しながら、低温太陽熱・地熱・地中熱などの再エネ熱の熱源統合により、地域熱供給を改善できるのではと解説された。又、地中熱利用の各地での具体例を挙げて従来システムと比較され、農業においても十分活用される事を説明されました。



引き続き地元秋田県の講演—1として「建設業の持続的な発展を目指して～建設産業活性化センターの取り組み」、講演—2として「大仙市花火産業構想に関する取り組みについて」も行われた。特に大曲商工会議所副会頭の小松氏による花火産業に対する情熱が、その熱弁を通して出席者全員に伝わり、花火映像を用いての説明も効果的で、大変すばらしいプレゼンテーションでした。



会議終了後、懇親会までの空き時間に、ホテル東側敷地で「秋田竿燈」の実演がありました。夕闇が迫り、目の前で行われたせいもあり、迫力満点の圧倒的な演技でした。



懇親会は藤澤会長の挨拶で始まり、来賓として四国の発言で話題になった秋田県の佐竹知事が挨拶されました。その後乾杯の発声を小林東北支部長が行い、歓談に移りました。閉会の挨拶は主管の（一社）秋田県空調衛生工事業協会の阿部会長が締め、盛会のうちに終わることが出来ました。

